

病害虫発生予報 第2号

(向こう1か月間の発生予報)

I 総括表

作物名	病害虫名	地域	発生量	発生時期	摘要
麦	赤かび病	全域	並～やや多	早	
	さび病	全域	やや少	やや早	
	うどんこ病	全域	やや少	やや早	
水稲	ニカメイチュウ	全域	並	並	
	ツマグロヨコバイ(イネ黄萎病)	全域	並	並	
	イネドロオイムシ	全域	並	並	
	イネミズゾウムシ	全域	並	やや早	
りんご	赤星病	全域	並	やや早	
	うどんこ病	全域	並	やや早	
	黒星病	全域	並	やや早	
	斑点落葉病	全域	並	並～やや早	
	腐らん病	全域	並～やや多	—	
	黒点病	全域	並	並～やや早	
	アブラムシ類	全域	並	並～やや早	
	キンモンホソガ	全域	並	並～やや早	
	ナシヒメシンクイ	全域	並	並	
	リンゴハダニ	全域	並～やや多	並	
ナミハダニ	全域	並	並		
リンゴコカクモンハマキ	全域	並	並		
なし	赤星病	全域	並	並	
	黒星病	全域	並	並	
	黒斑病	全域	並	並	
	胴枯病	全域	並	並	
	アブラムシ類	全域	並	並～やや早	
	クワコナカイガラムシ	全域	並	並	
	ナシヒメシンクイ	全域	並	並～やや早	
	モモシンクイガ	全域	並	並～やや早	
	リンゴハダニ	全域	並	並～やや早	

なし	ナミハダニ	全域	並	並～やや早	
	リンゴコカクモンハマキ	全域	並	並～やや早	
もも	黒星病	全域	並	並～やや早	
	せん孔細菌病	全域	並	並～やや早	
	灰星病	全域	並	並～やや早	
	シンクイムシ類	全域	並	並	
	ハマキムシ類	全域	並	並	
	モモハモグリガ	全域	並	並	
	アブラムシ類	全域	並	並～やや早	
ぶどう	カメムシ類	全域	並	並	
	晩腐病	全域	並	並	
	べと病	全域	並	並～やや早	
	灰色かび病	全域	並	並～やや早	
	黒とう病	全域	並	並～やや早	
うめ	チャノキイロアザミウマ	全域	並	並	
	かいよう病	全域	並	並	
トマト	黒星病	全域	並	並	
	葉かび病	全域	並	並	
きゅうり	べと病	全域	並	並	
施設果菜類	灰色かび病	全域	並	並～やや早	
	うどんこ病	全域	並	並～やや早	
	アザミウマ類・アブラムシ類	全域	並～やや多	並～やや早	
	オンシツコナジラミ	全域	並～やや多	並	
アブラナ科野菜	黒斑細菌病	全域	並～やや多	並	
	コナガ	全域	並～やや多	並～やや早	
レタス	斑点細菌病	全域	並～やや多	並	
	腐敗病・すそ枯病・灰色かび病・菌核病	全域	並～やや多	並	
アスパラガス	茎枯病	全域	並	並	
	ジュウシホシクビナガハムシ	全域	並	並～やや早	
たまねぎ	べと病	全域	並～やや多	並	
野菜・花き全般	アブラムシ類	全域	並	並～やや早	
	ハモグリバエ類	全域	並～やや多	並～やや早	
	オオタバコガ	全域	並～やや多	やや早～早	

※発生時期の空欄は、発生時期の関係ないものや発生中のものを示す。

II 向こう1か月の天候の見通し及び予報の根拠にかかる気象要因

1 向こう1か月の天候の見通し (気象庁 令和8年5月14日発表)

【関東甲信地方 5月15日～6月14日】

暖かい空気に覆われやすいため、向こう1か月の気温は高くなる見込み。また、前線や湿った空気の影響を受けやすいため、降水量は平年並みか多く、日照時間は平年並みか少ない見込み。

◎関東甲信地方 向こう1か月の平均気温、降水量、日照時間

区分	見込み	予想される出現確率 (%)		
		低い (少ない)	平年並	高い (多い)
平均気温	高い	10	10	80
降水量	ほぼ平年並	20	40	40
日照時間	ほぼ平年並	40	40	20

2 予報の根拠にかかる気象要因

(+)は発生を増加させる要因、(-)は発生を減少させる要因を示す。

III 麦

1 赤かび病

(1) 予報の内容 発生量：平年並～やや多い 発生時期：早い

(2) 予報の根拠
気象要因 (+)

向こう1か月の気象予報では、気温が高く、降水量は平年並みか多いと予想されている。

(3) 防除上の留意点

- ①最も感染しやすい開花期に防除を行う。
- ②開花期に曇雨天が続くと多発する。多発が予想される場合には、第1回防除(開花期)から10～14日後に追加防除を行う。
- ③今後の発生予察情報及び気象情報に注意する。

2 さび病

(1) 予報の内容 発生量：やや少 発生時期：やや早い

(2) 予報の根拠

- ①直近の巡回調査では、発生はみられなかった。
- ②前年の発生が少なかったため、病原菌の量もやや少なかったと推定される。
- ③近年は発病しにくい品種を中心とした栽培が行われている。
- ④向こう1か月の気象予報では、気温は高いと予想されている。

(3) 防除上の留意点

- ①発病初期を中心に防除を行う。
- ②5月上旬にコムギ赤さび病の発病がみられたほ場では、実害が生じる程度まで発病が増加するリスクが高いため、開花期に防除を行う。

3 うどんこ病

(1) 予報の内容 発生量：やや少 発生時期：やや早い

(2) 予報の根拠

- ①前年の発生が少なかったため、病原菌の量もやや少なかったと推定される。
- ②近年は発病しにくい品種を中心とした栽培が行われている。
- ③向こう1か月の気象予報では、気温は高いと予想されている。

(3) 防除上の留意点

発病初期を中心に防除を行う。

IV 水稲

1 ニカメイチュウ (第1世代幼虫)

(1) 予報の内容 発生量：平年並 発生時期：平年並

(2) 予報の根拠

- ①前年の発生面積は平年並であったため、越冬幼虫個体数は平年並と予想される。
- ②須坂市及び小布施町フェロモントラップでは、5月第2半旬まで誘殺は確認されていない。また、上田市設置の予察灯への誘殺は確認されていない。

(3) 防除上の留意点

- ①5月下旬以降の移植であれば、苗箱施薬剤の処理効果は高い。前年に被害が発生した地域では、苗箱施薬剤にニカメイチュウにも効果のある薬剤を用いる。薬剤は「農作物病害虫・雑草防除基準」(以下「県防除基準」という。)を参考に選択する。
- ②本田防除を行う場合、第1世代幼虫防除適期は越冬世代成虫の発蛾最盛期10～15日後(北信地域の平年は6月下旬)である。

2 ツマグロヨコバイ第1回成虫 (イネ黄萎病)

(1) 予報の内容 発生量：平年並 発生時期：平年並

(2) 予報の根拠

- ①前年の発生面積は平年並であったため、越冬幼虫個体数は平年並と予想される。
- ②4月の畦畔の吹き出し調査では、成虫の捕獲虫はほぼ平年並であった。

(3) 防除上の留意点

イネ黄萎病の発生の恐れのある地域では、「県防除基準」を参照し、ツマグロヨコバイに効果の高い苗箱施薬剤を選択する。

3 イネドロオウムシ

(1) 予報の内容 発生量：**平年並** 発生時期：**平年並**

(2) 予報の根拠

前年の発生は、一部のほ場で多かったが、全般には平年と比べやや少なかったため、越年個体数は平年並と予想される。

(3) 防除上の留意点

発生期間が長引く場合は、苗箱施薬を実施していても本田防除を検討する。

4 イネミズゾウムシ

(1) 予報の内容 発生量：**平年並** 発生時期：**やや早い**

(2) 予報の根拠

①前年の発生面積は平年並であったため、越年個体数は平年並と予想される。

②上田市設置の予察灯への成虫の捕獲虫は、平年と比べ早く、5月9日に初誘殺された。

③アメダスの気温データを用いた有効積算温度による越冬後成虫の半数出現時期（5月19日時点）は、全般的に平年並～5日早いと推定されたが、佐久地域及び木曽地域では平年より2日遅いと推定された。

(3) 防除上の留意点

①苗箱施薬をしても発生の多い場合は、本田防除を検討する。

②本田における要防除密度は、株当たり成虫1頭である。

③湛水直播栽培では被害を受けやすいので、多発地域では発芽直後から発生に注意する。

V りんご

1 赤星病

(1) 予報の内容 発生量：**平年並** 発生時期：**やや早い**

(2) 予報の根拠

①越冬伝染源量は、平年並と予想される。

②りんごの生育がやや早いことから、発生時期はやや早いと予想される。

(3) 防除上の留意点

防除間隔を空けすぎないように留意して「県防除基準」を参照し、防除する。

2 うどんこ病

(1) 予報の内容 発生量：**平年並** 発生時期：**やや早い**

(2) 予報の根拠

①全般に越冬伝染源量は、平年並と予想される。

②りんごの生育がやや早いことから、発生時期はやや早いと予想される。

③須坂市（果樹試験場）の無防除樹における花そう葉での初発は、4月13日であった。

(3) 防除上の留意点

①ほ場内をよく点検し、被害花そうは早期にせん除し、土中に埋める。

②発生が多い場合は、「県防除基準」を参照し、防除効果の高い農薬を散布する。

3 黒星病

(1) 予報の内容 発生量：**平年並** 発生時期：**やや早い**

(2) 予報の根拠

①全般に越冬伝染源量は、平年並と予想される。

②りんごの生育がやや早いことから、発生時期はやや早いと予想される。

③須坂市（果樹試験場）の無防除樹における花そう葉での初発は、4月27日に確認された。

(3) 防除上の留意点

①薬剤耐性黒星病菌の定着・拡散を防止するため、「県防除基準」を参照し、薬剤を選定する。

②5月下旬までの防除が重要である。防除間隔を空けすぎないように留意し、降雨状況等を勘案して定期的に防除する。

4 斑点落葉病

(1) 予報の内容 発生量：**平年並** 発生時期：**平年並～やや早い**

(2) 予報の根拠

①伝染源量は、平年並と予想される。

②りんごの生育がやや早いことから、発生時期は平年並からやや早いと予想される。

(3) 防除上の留意点

防除間隔を空けすぎないように留意し、定期的に防除する。

5 腐らん病

(1) 予報の内容 発生量：**平年並～やや多い**

(2) 予報の根拠

①伝染源量は、平年並と予想される。

(3) 防除上の留意点

①枝腐らん病は発芽期～展葉期にかけて発見しやすい。園内の点検に努め、早期発見・治療に努める。

②病斑の削り取り後は、農薬登録のある塗布剤で必ず処理する。

③枝幹部にも薬剤が十分かかるように散布する。

6 黒点病

(1) 予報の内容 発生量：**平年並** 発生時期：**平年並～やや早い**

(2) 予報の根拠

①伝染源量は、平年並と予想される。

②りんごの生育がやや早いことから、発生時期は平年並からやや早いと予想される。

- (3) 防除上の留意点
防除間隔を空けすぎないように留意し、防除する。

7 アブラムシ類

- (1) 予報の内容 発生量：**平年並** 発生時期：**平年並～やや早い**

(2) 予報の根拠

① 5月上旬の寄生量は、平年並である。

② 気象要因（+）

向こう1か月の気象予報では、気温は高いと予想され、新梢が伸長しやすくなり、発生もやや早まると予想される。

(3) 防除上の留意点

葉が巻いてからでは、十分な防除効果が得られないので発生初期の薬剤散布を心がける。薬剤によっては蚕に対する毒性が強いものがあるので注意する。

8 キンモンホソガ

- (1) 予報の内容 発生量：**平年並** 発生時期：**平年並～やや早い**

(2) 予報の根拠

① 越冬世代成虫の発生量は平年並である。

② 須坂市（果樹試験場）のフェロモントラップ調査では、越冬世代成虫の誘殺開始は早く、4月第1半旬からみられている。

(3) 防除上の留意点

「県防除基準」を参照し、防除する（蚕に対する毒性に注意）。

9 ナシヒメシンクイ

- (1) 予報の内容 発生量：**平年並** 発生時期：**平年並**

(2) 予報の根拠

① 越冬世代成虫の発生量は、平年並である。

② 須坂市（果樹試験場）のフェロモントラップ調査では、4月2半旬に初誘殺が記録されている。

③ 生育は平年と比べやや早い。発生時期は平年並と予想されるが、この時期、本種を含め、シンクイムシ類のほ場での動向に注視する必要がある。

(3) 防除上の留意点

① 芯折れの被害新梢は、切除して焼却する。

② 6月に「芯折れ症状」が多い場合は、第二世代幼虫の防除を徹底する。

③ 産卵がピークとなる時期は、防除間隔を2週間以上空けないようにする。

10 リンゴハダニ

- (1) 予報の内容 発生量：**平年並～やや多い** 発生時期：**平年並**

(2) 予報の根拠

① 越冬卵量は、ところによりやや多い。

② 気象要因（+）

向こう1か月の気象予報では、気温は高いと予想されている。

③ 生育は、平年と比べやや早い、発生時期は平年並と予想される。

(3) 防除上の留意点

① 発生が多い場合は、殺ダニ剤を散布する。

② 防除は、散布むらが生じないように散布する。

11 ナミハダニ

- (1) 予報の内容 発生量：**平年並** 発生時期：**平年並**

(2) 予報の根拠

① 越冬成虫量は、平年並と予想される。

② 気象要因（+）

向こう1か月の気象予報では、気温は高いと予想されている。

③ 生育は、平年と比べやや早い、発生時期は平年並と予想される。

(3) 防除上の留意点

① 発生が多い場合は、殺ダニ剤を散布する。

② 防除は、散布むらが生じないように散布する。

12 リンゴコカクモンハマキ

- (1) 予報の内容 発生量：**平年並** 発生時期：**平年並**

(2) 予報の根拠

① 生育は、平年と比べやや早い、発生時期は平年並と予想される。

② 気象要因（+）

向こう1か月の気象予報では、気温は高いと予想されている。

(3) 防除上の留意点

① 「県防除基準」を参照し、防除する（蚕に対する毒性に注意）。

② 発生時期を把握し、防除が遅れないように留意する。

③ 交信攪乱剤を利用する場合は、5月中下旬までに設置する。

VI なし

1 赤星病

- (1) 予報の内容 発生量：**平年並** 発生時期：**平年並**

(2) 予報の根拠

巡回調査では、わずかに発生が認められた程度だった。

(3) 防除上の留意点

発生が多い場合は、伝染源となるビャクシン類が近隣に存在する場合はあるので、可能であれば伐採する。

2 黒星病

- (1) 予報の内容 発生量：**平年並** 発生時期：**平年並**
- (2) 予報の根拠
- ①巡回調査では、発生はみられなかった。
 - ②高森町（南信試験場）の子のう胞子飛散は、4月第1半旬から確認されており平年並である
 - ③高森町（南信試験場）の無防除樹における果実、花そう葉の発病は、5月中旬まで平年よりも少なく推移している。
- (3) 防除上の留意点
- ①定期的に薬剤散布を行い防除する。特に、常発園では受粉樹の防除も行う。
 - ②散布むらが生じないようにする。
 - ③罹病果、罹病葉は見つけ次第切除し、焼却または埋却する。
 - ④前年に発生が多かった園地、開花期前後の防除間隔を空けすぎた園地では、発生状況に注意し、今後の果実感染を予防する対策を講ずる。

3 黒斑病

- (1) 予報の内容 発生量：**平年並** 発生時期：**平年並**
- (2) 予報の根拠
- ①巡回調査及び県予察までは、発生はみられなかった。
 - ②高森町（南信試験場）では、捕捉胞子数が平年並で推移している。
- (3) 防除上の留意点
- ①「二十世紀」、「南水」では袋掛けまでの防除を徹底するとともに、防除間隔を空けすぎないようにする。袋掛けは生育に合わせて行い、作業が遅れないよう留意する。
 - ②発生園では、下草刈り、防風ネットを一時的に除去する等により園地環境を改善する。
 - ③発病果は見つけ次第、除去する。

4 胴枯病

- (1) 予報の内容 発生量：**平年並** 発生時期：**平年並**
- (2) 予報の根拠
- 巡回調査では、発生はみられなかった。
- (3) 防除上の留意点
- ①枯死枝は、せん除する。主幹部の病斑は、除去した後に塗布剤を処理する。
 - ②凍霜害を受けた園地では、降雨により感染が拡大する場合がありますので注意する。
 - ③胴枯病菌は、「幸水」に心腐れ症状を起こす場合があります。

5 アブラムシ類

- (1) 予報の内容 発生量：**平年並** 発生時期：**平年並～やや早い**
- (2) 予報の根拠
- なしの生育は、平年と比べやや早いことから、発生時期は平年並～やや早いと予想される。
- (3) 防除上の留意点
- ①主な発生種であるワタアブラムシは、有機リン剤、合成ピレスロイド剤などに対して感受性が低い場合があるので注意する。
 - ②葉が捲いてからでは、十分な防除効果が得られないので、発生初期に防除する。
 - ③葉が捲いている場合は、防除効果の高い薬剤を散布する。

6 クワコナカイガラムシ

- (1) 予報の内容 発生量：**平年並** 発生時期：**平年並**
- (2) 予報の根拠
- 有効積算温度による越冬卵のふ化完了予測日は、5月16日であり発生時期は平年並と予想される。
- (3) 防除上の留意点
- ①多発地域では、ふ化初期から有機リン剤など効果の高い殺虫剤を2週間間隔で2～3回散布する。
 - ②IGR（アブロード水和剤）は、時期を逸しないように散布する。

7 ナシヒメシンクイ

- (1) 予報の内容 発生量：**平年並** 発生時期：**平年並～やや早い**
- (2) 予報の根拠
- ①高森町（南信農業試験場）のフェロモントラップでは越冬世代成虫の誘殺ピークは4月中旬で平年並だったが誘殺始期はやや早かった。
 - ②巡回調査では平年並に寄生は認められなかった。
 - ③なしの生育は、平年と比べやや早いことから、発生時期は平年並～やや早いと予想される。
- (3) 防除上の留意点
- ①6月に「芯折れ症状」が多い場合は、第2世代幼虫の防除を徹底する。
 - ②産卵ピーク時期は、防除間隔は2週間以上空けないようにする。

8 モモシンクイガ

- (1) 予報の内容 発生量：**平年並** 発生時期：**平年並～やや早い**
- (2) 予報の根拠
- ①越冬幼虫量は、平年並と予想される。
 - ②なしの生育は、平年と比べやや早いことから、発生時期は平年並～やや早いと予想される。
- (3) 防除上の留意点
- 産卵ピーク時期には、防除間隔を2週間以上空けないようにする。

9 リンゴハダニ

- (1) 予報の内容 発生量：平年並 発生時期：平年並～やや早い
- (2) 予報の根拠
- ①越冬卵量は、冬芽の調査では平年並である。
 - ②気象要因（＋）
向こう1か月の気象予報では、気温は高いと予想されている。
 - ③なしの生育は、平年と比べやや早いことから、発生時期は平年並～やや早いと予想される。
- (3) 防除上の留意点
- ①発生状況を確認して、密度が増加する前に殺ダニ剤を散布する。
 - ②散布むらが生じないようにする。

10 ナミハダニ

- (1) 予報の内容 発生量：平年並 発生時期：平年並～やや早い
- (2) 予報の根拠
- ①越冬成虫量は、平年並と予想される。
 - ②気象要因（＋）
向こう1か月の気象予報では、気温は高いと予想されている。
 - ③なしの生育は、平年と比べやや早いことから、発生時期は平年並～やや早いと予想される。
- (3) 防除上の留意点
- ①発生状況を確認して、密度が増加する前に殺ダニ剤を散布する。
 - ②散布むらが生じないようにする。

11 リンゴコカクモンハマキ

- (1) 予報の内容 発生量：平年並 発生時期：平年並～やや早い
- (2) 予報の根拠
- ①越冬世代成虫の発生量は、平年並と推測される。
 - ②なしの生育は、平年と比べやや早いことから、発生時期は平年並～やや早いと予想される。
- (3) 防除上の留意点
- ①発生時期を把握し、遅れないように防除する。
 - ②交信かく乱剤は、5月中下旬までに設置する。

VII もも（ネクタリンを除く）

1 黒星病

- (1) 予報の内容 発生量：平年並 発生時期：平年並～やや早い
- (2) 予報の根拠
- ①発生量は、平年並と予想される。
 - ②ももの生育がやや早いことから、発生時期は平年並からやや早いと予想される。
- (3) 防除上の留意点
- 5月中下旬～6月に、登録のある殺菌剤を散布する。薬剤によっては、高温時に散布すると薬害が発生する恐れがあるので注意する。

2 せん孔細菌病

- (1) 予報の内容 発生量：平年並 発生時期：平年並～やや早い
- (2) 予報の根拠
- ももの生育がやや早いことから、発生時期は平年並からやや早いと予想される。
- (3) 防除上の留意点
- ①第一次伝染源である春型枝病斑は、見つけしだい必ずせん除し、埋却処分等を行う。
 - ②「県防除基準」を参照し、抗生物質剤等を選択して防除する（使用時期に注意）。また、これらの薬剤は薬剤耐性菌出現の恐れがあるので、使用回数等に注意する。
 - ③抗生物質剤の中には、満開約30～14日前の有核ぶどうにかかると、種なし果を生じさせる薬剤があるので注意する。

3 灰星病

- (1) 予報の内容 発生量：平年並 発生時期：平年並～やや早い
- (2) 予報の根拠
- ①伝染源量は、平年並と予想され、発生量も平年並と予想される。
 - ②ももの生育がやや早いことから、発生時期は平年並からやや早いと予想される。
- (3) 防除上の留意点
- ①収穫20日前頃からの防除が重要となるので、「県防除基準」を参照し、防除する。また、降雨の状況に応じて散布間隔を短縮する。
 - ②花腐れや被害果実は、見つけ次第除去する。

4 シンクイムシ類

- (1) 予報の内容 発生量：平年並 発生時期：平年並
- (2) 予報の根拠
- ①ナシヒメシンクイの越冬世代成虫の発生量は、平年並である。また、その他シンクイムシ類の越冬量は、平年並と予想される。
 - ②生育は、平年と比べやや早い、発生時期は平年並と予想される。
- (3) 防除上の留意点
- ①芯折れの被害新梢は、見つけ次第、切除して焼却する。
 - ②「県防除基準」を参照し、防除する。

5 ハマキムシ類

- (1) 予報の内容 発生量：平年並 発生時期：平年並
- (2) 予報の根拠
- ①越冬量は、平年並と予想される。
 - ②生育は、平年と比べやや早い、発生時期は平年並と予想される。
- (3) 防除上の留意点
- 発生が多いところでは、「県防除基準」を参照し、早期に防除する。

6 モモハモグリガ

- (1) 予報の内容 発生量：平年並 発生時期：平年並
- (2) 予報の根拠
- ①越冬世代成虫の発生量は、平年並である。
 - ②ももの生育は、平年と比べやや早い、発生時期は平年並と予想される。
- (3) 防除上の留意点
- 「県防除基準」を参照し、防除する。

7 アブラムシ類

- (1) 予報の内容 発生量：平年並 発生時期：平年並～やや早い
- (2) 予報の根拠
- ①気象要因（＋）
向こう1か月の気象予報では、気温は高いと予想されている。
 - ②生育は、平年と比べやや早く、発生時期は平年並からやや早いと予想される。
- (3) 防除上の留意点
- 「県防除基準」を参照し、防除する。

8 カメムシ類

- (1) 予報の内容 発生量：平年並 発生時期：平年並
- (2) 予報の根拠
- ①越冬世代成虫量は、平年並と予想される。
 - ②発生時期は、平年並と予想されるが、高温予想が拡大すると発生量がやや多くなり、果樹園への飛来も早まる可能性がある。
- (3) 防除上の留意点
- 「県防除基準」を参照し、発生園では早めに防除する。

VIII ぶどう

1 晩腐病

- (1) 予報の内容 発生量：平年並 発生時期：平年並
- (2) 予報の根拠
- ①越冬伝染源量は、平年並と予想される。
- (3) 防除上の留意点
- ①「県防除基準」を参照し、降雨前後にすみやかに防除する。
 - ②薬剤耐性菌出現を防止するため、同一系統・同一薬剤は連用せず、異なる系統の薬剤でローテーション散布する。
 - ③薬剤の散布むらが生じないよう新梢管理を行う。

2 ベと病

- (1) 予報の内容 発生量：平年並 発生時期：平年並～やや早い
- (2) 予報の根拠
- ①越冬伝染源量は、平年並と予想される。
 - ②生育は、平年と比べやや早いことから、発生時期は平年並～やや早いと予想される。
- (3) 防除上の留意点
- ①「県防除基準」を参照し、間隔をあげすぎないように定期的に防除する。
 - ②薬剤耐性菌出現を防止するため、同一系統・同一薬剤は連用せず、異なる系統の薬剤でローテーション散布する。
 - ③薬剤の散布むらが生じないよう新梢管理を行う。

3 灰色かび病

- (1) 予報の内容 発生量：平年並 発生時期：平年並～やや早い
- (2) 予報の根拠
- ①越冬伝染源量は、平年並と予想される。
 - ②生育は、平年と比べやや早いことから、発生時期は平年並～やや早いと予想される。
- (3) 防除上の留意点
- ①「県防除基準」を参照し、開花期前後にすみやかに防除する。
 - ②薬剤耐性菌出現を防止するため、同一系統・同一薬剤は連用せず、異なる系統の薬剤でローテーション散布する。
 - ③花かす落としを励行し、被害花房や果房は見つけ次第、除去する。

4 黒とう病

- (1) 予報の内容 発生量：**平年並** 発生時期：**平年並～やや早い**
- (2) 予報の根拠
①越冬伝染源量は、平年並と予想される。
②ぶどうの生育は、平年と比べやや早いことから、発生時期は平年並～やや早いと予想される。
- (3) 防除上の留意点
①「県防除基準」を参照し、展開葉2～3枚時の防除を徹底する。
②防除間隔を空けすぎないようにするとともに、早期に袋かけを行う。

5 チャノキイロアザミウマ

- (1) 予報の内容 発生量：**平年並** 発生時期：**平年並**
- (2) 予報の根拠
①越冬量は、平年並と予想される。
②発生時期は、平年並と予想される。
- (3) 防除上の留意点
①「県防除基準」を参照し、開花期前後に防除する。
②薬剤の種類や散布時期によって、果粉溶脱や果粒にさびを生じるものがあるので注意する。

IX うめ

1 かいよう病

- (1) 予報の内容 発生量：**前年並** 発生時期：**前年並**
- (2) 予報の根拠
巡回調査では、枝の越冬病斑数は前年並であった。

2 黒星病

- (1) 予報の内容 発生量：**前年並** 発生時期：**前年並**
- (2) 予報の根拠
巡回調査では、枝の発病枝率は前年並であった。
- (3) 防除上の留意点
「県防除基準」を参照し、適切な薬剤を選択し防除する。

X 野菜

1 施設果菜類（トマト）の葉かび病

- (1) 予報の内容 発生量：**平年並** 発生時期：**平年並**
- (2) 予報の根拠
巡回調査では、発生はみられなかった。

(3) 防除上の留意点

- ①「防除基準」を参照し、防除する。
②多湿条件は、発生しやすくなるため過度の密植は避け、適正なかん水や換気等によって環境条件の改善に努める。

2 施設果菜類（きゅうり）のべと病

- (1) 予報の内容 発生量：**平年並** 発生時期：**平年並**
- (2) 予報の根拠
巡回調査では、発生はみられなかった。
- (3) 防除上の留意点
①「県防除基準」を参照し、防除する。
②灌水等で地表面から病原を含んだ泥水のはね上がりによって感染することが多いので、ポリマルチ、敷わら等によって水滴のはね上りを防ぐ。
③強度の摘心、着果過多、あるいは肥料切れなどによる草勢の衰えは、発病を助長するので適正な栽培管理を行う。

3 施設果菜類（きゅうり、トマト等）の灰色かび病

- (1) 予報の内容 発生量：**平年並** 発生時期：**平年並～やや早い**
- (2) 予報の根拠
巡回調査では、南信地域のトマトで発生がみられた。
- (3) 防除上の留意点
①昼夜の温度差が大きくなり、結露量が増えると発生しやすくなる。
②施設内の換気を十分行い、除湿を図る。除湿器の利用は、ハウス内の湿度上昇抑制に有効である。
③発病葉、発病果は見つけしだい除去する。
④「県防除基準」を参照し、防除する。

4 施設果菜類（きゅうり、トマト等）のうどんこ病

- (1) 予報の内容 発生量：**平年並** 発生時期：**平年並～やや早い**
- (2) 予報の根拠
巡回調査では、中信地域のきゅうりで発生がみられた。
- (3) 防除上の留意点
①「県防除基準」を参照し、7～10日間隔で薬剤散布を行う。その後は、発生状況に応じて適宜防除する。多発してからの薬剤散布は効果が劣る。
②薬剤耐性菌出現を防止するため、同一系統・同一薬剤は連用せず、異なる系統の薬剤でローテーション散布する。
③下葉で発病の著しいものは摘葉する。

5 施設果菜類（きゅうり、トマト等）のアザミウマ類・アブラムシ類

- (1) 予報の内容 発生量：**平年並～やや多い** 発生時期：**平年並～やや早い**
- (2) 予報の根拠
 - ①巡回調査では、中信及び北信地域の施設栽培ほ場で、5月上旬からアザミウマ類及びアブラムシ類の寄生がみられた。
 - ②気象要因（+）
向こう1か月の気象予報では、気温が高いと予想されており、活動が活発になると予想される。
- (3) 防除上の留意点
 - ①定植時に粒剤処理を行い、生育期間中は「県防除基準」を参照し防除する。
 - ②日中の気温上昇で側窓を開放する場合は、施設内への飛び込みに注意する。

6 施設果菜類（きゅうり、トマト等）のオンシツコナジラミ

- (1) 予報の内容 発生量：**平年並～やや多い** 発生時期：**平年並**
- (2) 予報の根拠
 - ①巡回調査では、寄生はみられなかった。
 - ②気象要因（+）
向こう1か月の気象予報では、気温が高いと予想されており、活動が活発になると予想される。
- (3) 防除上の留意点
 - ①定植時に粒剤処理を行い、生育期間中は「県防除基準」を参照し防除する。
 - ②日中の気温上昇で側窓を開放する場合は、施設内への飛び込みに注意する。

7 アブラナ科野菜の黒斑細菌病

- (1) 予報の内容 発生量：**平年並～やや多い** 発生時期：**平年並**
- (2) 予報の根拠
気象要因（+）
向こう1か月の気象予報では、降水量は平年並か多く、日照時間は平年並か少ないと予想されている。
- (3) 防除上の留意点
 - ①アブラナ科野菜の連作は避ける。
 - ②品種間差が大きいので、品種選定に留意する。
 - ③「県防除基準」を参照し、防除する。
 - ④収穫残さは二次伝染源となるので、早期に除去し適正に処理する。

8 アブラナ科野菜のコナガ

- (1) 予報の内容 発生量：**平年並～やや多い** 発生時期：**平年並～やや早い**
- (2) 予報の根拠
 - ①巡回調査では、5月上旬に成虫が確認されたほ場がみられた。
 - ②フェロモントラップ調査では、小諸市及び朝日村で、4月の誘殺頭数が平年と比べ多い。

- (3) 防除上の留意点
 - ①「県防除基準」を参照し、防除する。
 - ②薬剤抵抗性の発達を防止するため、同一系統・同一薬剤は連用せず、異なる系統の薬剤でローテーション散布する。

9 レタスの斑点細菌病

- (1) 予報の内容 発生量：**平年並～やや多い** 発生時期：**平年並**
- (2) 予報の根拠
気象要因（+）
向こう1か月の気象予報では、降水量は平年並か多く、日照時間は平年並か少ないと予想されている。
- (3) 防除上の留意点
 - ①「県防除基準」を参照し、防除する。
 - ②ナモグリバエの吸汁産卵痕から感染しやすいので、ナモグリバエの発生が多い場合には注意する。

10 レタスの腐敗病・すそ枯病・灰色かび病・菌核病

- (1) 予報の内容 発生量：**平年並～やや多い** 発生時期：**平年並**
- (2) 予報の根拠
 - ①巡回調査では、中信地域の一部のほ場ですそ枯病の発生がみられた。
 - ②気象要因（+）
向こう1か月の気象予報では、降水量は平年並か多く、日照時間は平年並か少ないと予想されており、すそ枯病の発生が助長されると推察される。
- (3) 防除上の留意点
 - ①「県防除基準」を参照し、防除する。
 - ②凍霜害の被害があったほ場では、低温性の腐敗病、灰色かび病、菌核病が発生するおそれがある。また、結球が進んだものほど低温等の影響を受けやすく、今後の天候によっては被害部から腐敗性病害が発生することがあるので注意する。

11 アスパラガス茎枯病

- (1) 予報の内容 発生量：**平年並** 発生時期：**平年並**
- (2) 予報の根拠
巡回調査では、発生はみられなかった。
- (3) 防除上の留意点
 - ①「県防除基準」を参照し、防除する。
 - ②春収穫後の残茎に発生がある場合は、伝染源になるので早期に処分する。
 - ③降雨による病原を含んだ泥水のはね上がりにより感染が拡大するので、土寄せ、敷わら等を行う。
 - ④散布間隔を短縮して立茎時に重点防除すると、茎枯病の予防に効果が高い。
 - ⑤薬剤耐性菌出現を防止するため、同一系統・同一薬剤は連用せず、異なる系統の薬剤でローテーション散布する。

12 アスパラガスのジュウシホシクビナガハムシ

- (1) 予報の内容 発生量：**平年並** 発生時期：**平年並～やや早い**
(2) 予報の根拠
巡回調査ほかのほ場で、成虫の寄生がみられた。
(3) 防除上の留意点
①山際のは場や前年に多発したほ場では、発生が多い。
②「県防除基準」を参照し、防除する。

13 タマネギべと病

- (1) 予報の内容 発生量：**平年並～やや多い** 発生時期：**平年並**
(2) 予報の根拠
①巡回調査では、発生はみられなかった。
②気象要因（+）
向こう1か月の気象予報では、降水量は平年並か多く、日照時間は平年並か少ないと予想されている。
(3) 防除上の留意点
①「県防除基準」を参照し、防除する。
②発病茎葉は、二次伝染源となるので早期に除去し、適正に処分する。

14 アブラムシ類（野菜・花き全般）

- (1) 予報の内容 発生量：**平年並** 発生時期：**平年並～やや早い**
(2) 予報の根拠
①巡回調査では、5月上旬に東信地域のばれいしょで寄生がみられた。
②黄色粘着トラップによるアブラムシ類有翅虫飛来調査では、4月の誘殺頭数は概ね平年並みであった。
(3) 防除上の留意点
①シルバーストライプマルチの利用により、有翅虫の飛来忌避が期待できる。
②播種または定植時に粒剤を施用し、初期の発生を抑える。

15 ハモグリバエ類（野菜・花き全般）

- (1) 予報の内容 発生量：**平年並～やや多い** 発生時期：**平年並～やや早い**
(2) 予報の根拠
①巡回調査では、南信地域のねぎ及び北信地域のたまねぎでハモグリバエ類による食害痕がみられた。
②小諸市（県発生予察ほ）の黄色粘着トラップによるハモグリバエの飛来調査では、初誘殺は平年と比べやや早く、誘殺頭数がやや多い。
(3) 防除上の留意点
①育苗期から防除を徹底し、無寄生苗を定植する。
②定植時に粒剤を処理する。
③生育期は、成虫の発生状況や吸汁産卵痕をよく観察し、防除が遅れないように注意する。

16 オオタバコガ（野菜・花き全般）

- (1) 予報の内容 発生量：**平年並～やや多い** 発生時期：**やや早い～早い**
(2) 予報の根拠
①巡回調査では、寄生はみられなかった。
②フェロモントラップ調査では、各地で初誘殺が平年よりも早く、特に小諸市で誘殺頭数が平年と比べ多い。
③気象要因（+）
向こう1か月の気象予報では、気温は高いと予想されている。
(3) 防除上の留意点
①「県防除基準」を参照し、防除する。
②薬剤抵抗性の発達を防止するため、同一系統・同一薬剤は連用せず、異なる系統の薬剤でローテーション散布する。
③結球野菜では、結球始期を重点的に1週間間隔で2～3回防除を行う。